

JAグループ鳥取自己改革推進レポート（4月号）

1. JA全農とっりの取り組み

BSS ラジオ『おいしいがっばい！全農おしごと探検隊』リニューアルスタート

『おいしいがっばい！全農おしごと探検隊』が4月よりリニューアルスタートした。令和3年度は、鳥取の農畜産物をテーマに「お題」を出し、ブームとなっている川柳を募集するリスナー参加型とすることで、より親しみをもっていただきファン拡大につなげる。

放送は、第1・第3火曜日 午後3時20分～5分間。継続的な展開とし、毎回の優秀作品の中からその年の最後の放送回で「全農とれたて川柳大賞」を開催し大賞を決定する。加えて、受賞者の電話出演や作品のポスターやカレンダー等販促ツールへの活用を検討し、鳥取県の農畜産物のPRを盛り上げる。

2. JA鳥取信連の取り組み

JAバンク食農教育応援事業による小学生向け補助教材の贈呈

3月18日、鳥取県庁(第2庁舎5階 教育委員会室)において、食農教育教材本の贈呈式を開催し、本会 入江理事長より鳥取県教育委員会 山本教育長へ「農業とわたしたちのくらし」を贈呈した。

本取り組みは、「JAバンク食農教育応援事業」の一環として、平成20年度より毎年、県下の小学校高学年向けに教材本を贈呈しているもので、DVDも併せて贈呈した。

入江理事長は「令和3年度版は、新学習要領に示された『主体的・対話的で深い学び』の趣旨を踏まえた内容となっており、ぜひ教材本を活用いただき、子どもたちが主体的に話し合いながら、農業への理解を深めていただきたい。」と述べた。

山本教育長は、「写真や図表がふんだんに使われていることで、学校現場からも使いやすいとの声を聞く。子どもたちが農業と自分たちの生活とのつながりについて理解を深め、体験学習にも繋げることができる。教材本を活用しながら生産者の想いや苦労を子どもたちに伝え、食育への取り組みに役立てたい。」と感謝の言葉をいただいた。

令和3年度版は、県内124校に5,481冊の贈呈を予定しており、県内各小学校へは、それぞれのJAから直接、贈呈することとしている。

「農業とわたしたちのくらし」



3. JA共済連鳥取の取り組み

令和3年度JA共済地域・農業活性化事業費を活用した地域貢献活動の取り組み

第28回JA全国大会においても掲げられているJA自己改革の実践継続に向け、共済事業においては、JA・連合会による地域貢献活動・地域農業振興の取り組みを展開している。

令和3年度についても、取り組みの継続展開を基本としつつ、新しい生活様式が浸透する環境下もふまえた地域活性化活動による新たなJAファンづくりに取り組むとともに、事業基盤である持続可能な地域社会づくりに貢献するため、「SDGs」目標の達成もふまえた活動に取り組むこととしている。「JA共済 地域・農業活性化促進助成金（新型コロナウイルス対策を含む）」の交付によるJA独自施策を始め、県本部が実施主体となる県域統一施策について、以下の施策を展開・実施していく。

【令和3年度 主な県域統一施策の概要】

県域統一施策	施策概要	実施時期 (予定)
JA公用車ドライブレコーダー寄贈	県下3JAに対して、JA公用車用ドライブレコーダーを寄贈	随時
県への交通安全資材の寄贈	鳥取県交通安全対策協議会に対して、交通事故未然防止資材を寄贈	上期
JAへ子育て支援等にかかる活動資材等の提供	子育て世代（妊婦含む）に対し、各JA支所（店）と連携した育成支援資材等を提供	随時
行政・関係団体と連携した育児支援活動	乳幼児・園児（保護者等を含む）、妊婦等に対し、行政と連携した子育て支援資材等の提供およびイベントの協賛等を実施	随時
県域書道・ポスターコンクール	県下小中学校児童・生徒の応募作品コンクール	10月審査会、 12月表彰式
JA共済むてきカップ 学童軟式野球大会	県下3JA推薦の8チームによる県大会	8月
地域貢献活動のメディアPR	健康、防災、交通安全、くらしを支える地域貢献活動および生活支援にかかる地方新聞、雑誌、テレビ等のメディアPR	随時
地域農業振興にかかるメディアPR	地域農業の振興にかかる広報・啓発のメディアPR	随時
直売所イベント協賛	食のみやこ鳥取が主催する農産物フェアへの協賛	8月
新型コロナウイルス感染症予防対策への支援	県社会福祉協議会等へマスク等の感染予防物資を寄贈	上期

4. J A鳥取県中央会の取り組み

令和3年度 新規採用職員養成研修会の取り組みについて

J A鳥取県中央会は、令和3年度採用の新規採用職員養成研修会を4月8日、9日（J A鳥取いなば会場）、19日、20日（J A鳥取西部会場）、21日、22日（J A鳥取中央会場）の3会場で開いた。

当初は、令和3年3月にJ Aグループ鳥取の新規採用者が集合しての研修を予定していたが、新型コロナウイルスの感染リスクを考慮し、4月に開催時期を変更して3J Aに出向き、グループ全体で41名に出前研修を実施した。

カリキュラムを2日間に短縮し、「J A基礎講座」「日本農業とJ A」「認知症サポーター研修」や先輩職員との交流などを盛り込み、新型コロナウイルス感染対策に留意しながら研修を行った。

今後の取り組みとして、10月に新規採用職員フォロー研修会を予定している。



以上